この資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成，配布しております。

開隆堂の教科書
ワンポイント解説

①小中高の連携

開隆堂

新学習指導要領では，小・中・高等学校の内容の系統性の明確化が図られ，学習内容が小中にそろえてABCに整理されました。家庭科の小中高の系統性のイメージは時間軸・空間軸の広がりであらわされます。

時間軸でいえば小学校では「現在・これまでの生活」，中学校では「これからの生活」，高校では「生涯を見通した生活」。空間軸でいえば小学校では「家庭」，中学校では「地域」，高校では「社会」を学びの対象としています。

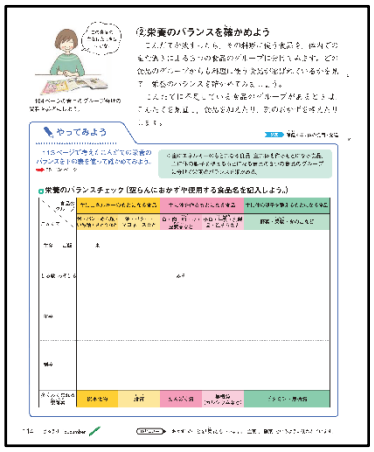
小学校から高校までの家庭科の教科書を発行する開隆堂は，小中高の系統性を意識した教科書づくりをし，校種を経ることで段階的に学びを広げられるように工夫をしています。

1．食生活

「献立」学習については，小学校で3色，中学校で6群，高校が4群の食品群が用いられ，生徒が戸惑う部分です。開隆堂の教科書では，それぞれの食品群の特長を活かして発展的に献立学習を学べるようにしながら，表の作り方を含めて，それぞれの食品群がつながるように工夫し，小中高での学習が連携できるようになっています。

小学校

小学校教科書 p.114



小学校では3色に分けた食品群で，食品のバランスを確認します。

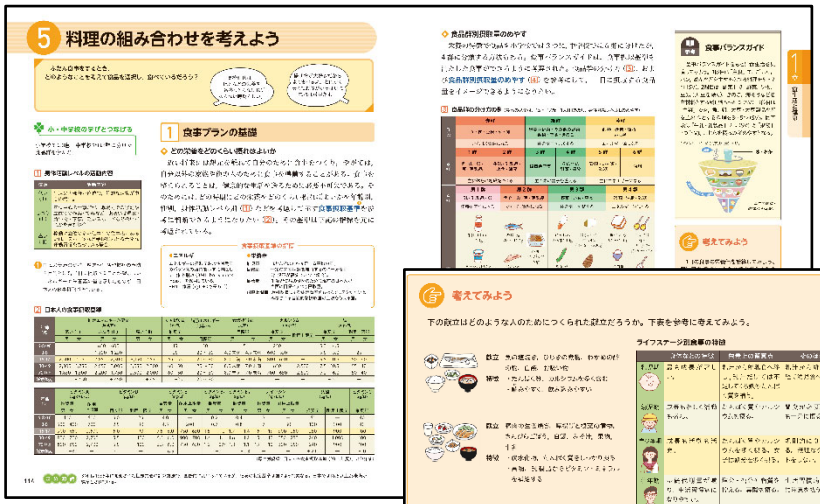
中学校

中学校では6つの基礎食品群を用いて，食品の概量も意識して，自分の1日分の献立づくりができるようにします。

中学校教科書　p.146-147

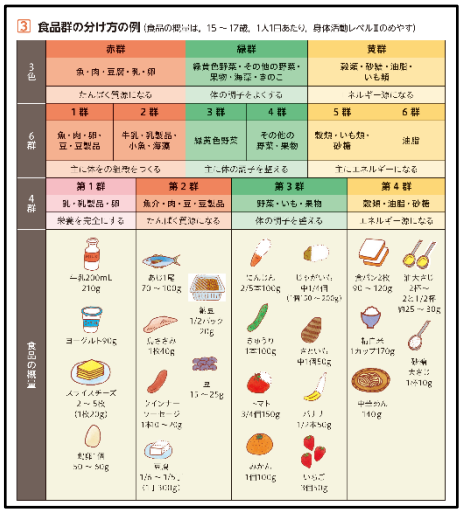
高校

家庭基礎　上 p.114-115/下 p.116



高校では4群を用いて，家族や自分以外の人のライフステージ別食事の特徴も意識しながら，献立を考えられるようにします。

家庭基礎 p.115



3色，6群，4群の分類のつながりを示す表も掲載。小中高を通じて，表の色設計をしているので，小学校，中学校で開隆堂の教科書を使用している生徒には特にイメージしやすいものになります。

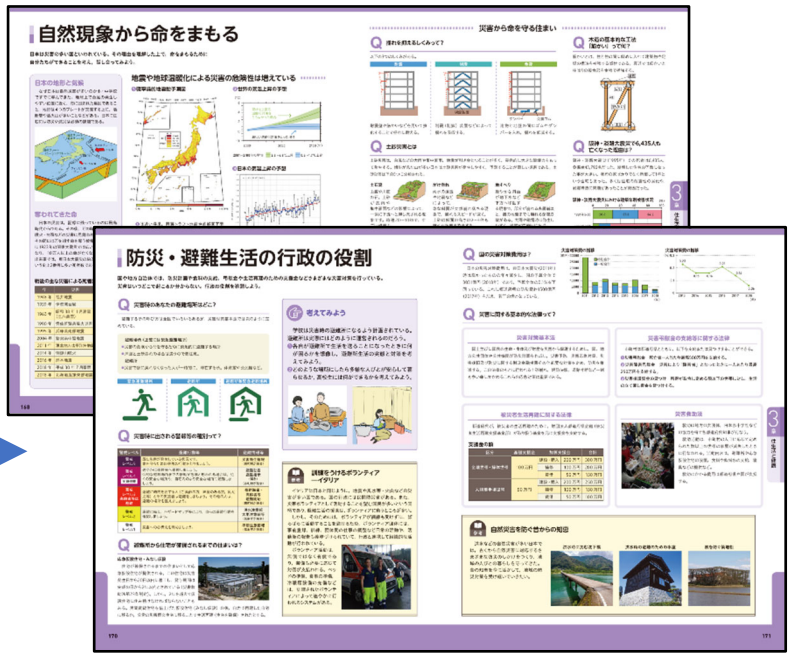
2．住生活

住居の学習で重視されている防災についても，小学校での身の回りの安全（整理・整とん）から，中学校での安全な住まいの整え方や地域の防災，そして高校では災害に強い社会について考える内容へと発展するように小中高のストーリーをつくっています。高校では，地学・物理や地理・歴史，公民などとリンクさせて教科連携もしながら防災学習を深められる内容になりました。

中学校　**中学校では災害への備えとして，住まいの整え方，地域の安全対策を学びます。**

中学校教科書　上 p219／下 p220

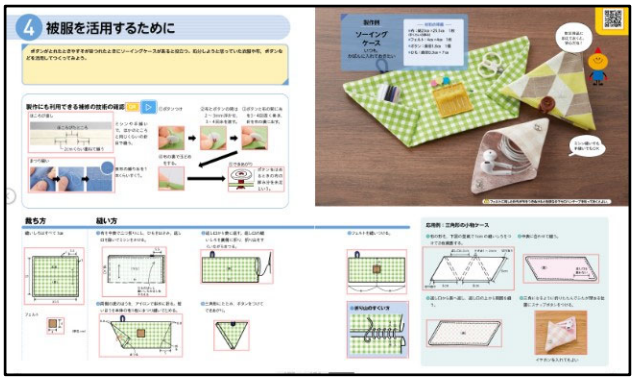
高校　**高校では科学的に災害発生のメカニズムも扱い，また災害に強い社会を考えるなど SDGs に関連させた学びに発展しています。**



家庭基礎　上 p168-169／下 p170-171

3．衣生活

家庭基礎では，学習指導要領上，被服の製作は扱いませんが，小学校から学んできた製作を定着させるには，実践をおこなってみたいもの。開隆堂の家庭基礎では，補修や簡単な製作例を取り上げて，これまでの技能の確認ができるようにしています。もちろん家庭総合では，製作の実習は充実。ステッチ入りのペンポーチや平面構成で上衣をつくる「はっぴ」など，小中の製作での蓄積を意識した題材を掲載しています。



ソーイングケースは携帯用で日常的に補修の活用を意識づけられます

家庭基礎　p152-153

4．小学校・中学校での学習内容の示し方

上記は一例であり，教科書全体で小学校・中学校との学びの連携を図っています。適宜「小・中学校の学びとつなげる」というコーナーを設け，これまでの学習と今学んでいることとどのようにつながるのか，生徒にもわかるように示しています。

また，発展だけではなく，これまでの振り返りもできるよう，QR コンテンツからは小学校・中学校で学んだ基礎技能を動画で参照できるようにしています。学習指導書に同梱するデジタル資料には小学校・中学校の教科書紙面や実習例の動画も収録予定です。

家庭基礎 p.28　「家庭の機能」について小中とのつながり

小・中学校の学びとつなげる

家庭の機能は，小・中学校でも学習してきた。それらを３つに整理するとおよそ以下になる。
①明日の活動のエネルギーを再生産する。
②出生から死までの生涯を，相互にケアする（育児，介護など）。
③安心してやすらぐ。

これらは，家事労働と良好な家族関係を必要とするが，その前提に経済的に安定していることがある。

高校生の生活はこの先も続きますが，家庭科としては集大成の年になります。将来にわたって使える知識・技能を着実に定着させるために，小中高の学びを接続した開隆堂の教科書のご採用をご検討いただければ幸いです。